

10月は運動会？

この10月は1964年の東京オリンピックを記念して「体育の日」が設けられたように、運動会日より日が続く！そしてまた、清野にとっても運動会のように息咳切つて走り続けた月であった！（あくしんど…）。しかし、実は本人は殆ど何もしていません、オリジンの社員の一人一人のこそが、いままでの自分の役割のみならず、新たに挑戦者として奮闘（こういう言葉を使うのはどう見ても60代以上だな…）してくれたのが、実際だ。清野の役割は単なる応援団！チョット寂しいが、それが実はオリジン第3次創業の姿だと教えられた。何をのっけから訳のわからない事を言っているのだと叱られそうだが、まずはその運動会のプログラム明細のご披露から始めなくては…。

オリジン
セミナー展示会

まず10月7日（大阪）と26日（東京）に「オリジンセミナー展示会」を実施した。東京は1995年より20回目、大阪は1998年より17回目、タクシーに関連する業者に出展して頂き展示会を行い、それに並行してセミナーを行うという形式で、毎年実施しているものである。今年はGIS（地図と様々なデータ）を使ったマーケティングを試みた。この分野の草分けである株式会社JPSの平下社長の講演を頂き、そして、弊社の新商品サービス企画

清野吉光氏のコラム 第83回

団塊耕志録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年(株)タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

明治維新に
あやかりたい!

部リーダーである畑山が、実際のお客様の走行データを活用して、地図上に展開するマーケティングに挑戦した。これから本場に必要とされる分野だと思う。大阪、東京共に、地域カンパニーの頑張りにより盛況であり、また今期から地域カンパニー制（社内呼称は藩体制…）の試行により、各カンパニーのゼネラルマネージャー（舌を噛みそう！清野的にはやはり「藩主」がいいな…）が会社紹介を行い、営業員だけではなく、システム員、フィールドサポート員など、地域カンパニー全員のイベントとして行われた。多分外からは見えないが、やはり新たな挑戦の一環として、この恒例の「セミナー展示会」も行われた事になる。

幕藩体制試行の
中間報告

さて来年4月に正式施行の「第3次創業」に向け、今年の4月から実施されている「幕藩体制」地域カンパニー制度」の中間報告が10月9日の「全体研修会」で行われた。全国の4つのカンパニーと10か所の支店、営業所から清水に集まり、各藩の藩主、幕府の奉行の人（いつの時代の話だ？）からこの半期の報告と総括と展望が報告された。そして、従来、長々と1時間を超える基調報告をし、懇意を買っていた清野の持ち時間は15分に減らされた！かつ首都圏の副藩主から事前に「社長、この15分の持ち時間をあえて10分で終える事が、社員の人が、会社の変化を実感できる重要なメッセージですよ」と耳打ちされた…。いつも1時間で足りない自分の御喋りが、15分に減らされた上、それをさらに10分に減らせという無体な提案に、一瞬自分の口はとんがりそうになつたが、よく考えてみると、目指すべき第3次創業は「社員の人が目を輝かせて働ける会社を作る」事であり、主人公は社員の人であつて、「社員の人の成長」こそが会社の発展の原動力であり、顧客に役立てる会社作りの源泉である。社長の高



説と称するお説教を長々と聞くような会社は本当の活性化は不可能だし、ホワイト企業化も実は見せかけでしかない。この「全体研修会」における持ち時間の半分はそれを象徴するものである、というかの二人の副藩主の指摘は全く正しいと思いなおし、何とか10分に納める事ができた（それにしてはよくそんな事を社長に面と向かって言うこの会社は、どうなっているんだ？と思いつつ…、でも、ちっと、

何故か、嬉しい…。

肥後タクシー小集団活動のシステム化への挑戦

さらに10月28日は熊本、肥後タクシーさんへのオリジンからのプレゼンが、7名ものオリジン側スタッフの参加の下に行われた。これは昨年と今年の3月に行われた肥後タクシーグループの公開合宿（オフサイトミーティング）に参加した我が社の社員、とりわけ来

年4月からシステムオリジンの社長となる海野現副社長が、この肥後タクシーさんの画期的な小集団活動のノウハウをシステム面でもお役に立てないかとの想いを持ち、事前に現場の見学と管理者の方々のヒアリングをさせて貰い、それを基に、弊社の商品企画、広報、タクコン横串奉行、西日本藩主、現場の営業が総掛りで、提案をさせて貰った。もちろん肥後グループの小集団活動における素晴らしい

さの肝は、システムの問題ではなく「心」や「愛」「信頼」という世界である事は承知の上で、あえてそれらをシステムの的にサポートできる領域に踏み込みたいというのが、我々の志の一つである。地方の疲弊するタクシ業界の中で、一つの明るい道筋を示している肥後タクシーグループの「思い」と「仕組み」と「システム」をノウハウ化し、皆さんに紹介していく事が、タクシ業界へのオリジンの役立ちのひとつになるのではないかと考え、この難しい課題にあえて挑戦していきたいと思う。

黒船と明治維新

さらにこの10月は、安倍首相自ら、特区制度の中でUber、リフトなどの自家用車を活用した仕組みを認めて行くよう指示をした。もちろんタクシ業界は、白タク承認への突破口として、大反対の声をあげている。まさにタクシ業界の根底を揺るがす大問題である。10月21日のタクシ

1問題懇談会、そして10月24、25日の「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2015」でも、この問題は結果的に大きなテーマとなった。多少レベル張りだが「新自由主義」「グローバリズム」の申し子であるUberやリフトなどが地域の地道な「くらしの足」を守り育てて行くとは、とても思えない。地方特区での投資は彼らにとってほんの「宣伝料」の範疇であり、クリームスキマーと思われる彼らにとってはやはり、都市部への進出の布石でしかないと思われる。タクシ業界にとっていま問われるのは、この黒船を逆手にとって、一気にタクシ業界の明治維新を遂行する事ではないだろうか？自家用車とIT、スマホ活用をタクシ事業者の陣型の中で行い、現にある利用者の多様なニーズに応えられる重層的な供給構造と価格体系を構築する事。明治維新をなしとげる絶好のチャンスが、逆に到来しているのではないだろうか？！

(2015年10月30日記)

タクシー買取専門店だから出来る高価買取

LPG、ガソリン、過走行、低年式等でも大丈夫!

株式会社ジェット

東京都公安委員会 第305561207814号

本社：〒174-0041 東京都板橋区舟渡 1-15-9 ブローブ浮間舟渡 101 ☎03-6454-9896